

岡山県議会議員

太田まさたか

おおた



プロフィール

昭和39年 生まれ 61歳

《役職歴》

県議会副議長・県監査委員

議会運営委員会委員長

総務委員会委員長

農林水産委員会委員長

土木委員会委員長

(選挙区:岡山市北区・加賀郡)

随時更新中!



太田まさたかホームページ

県政だより 令和8年 VOL.58

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

第77代岡山県議会議長の職責を果たしてまいります!

平素は私の県議会議員活動に対しまして温かいご理解ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

スポーツ界で岡山旋風が起きています。今年正月の箱根駅伝の「新」山の神が誕生しました。岡山出身の青山学院大学黒田朝日選手の見事な走りは年々初めから大きなパワーを与えてくれました。そして、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックでのスノーボード男子ビッグエアでの木村葵来選手の金メダル獲得とフィギュア団体アイスダンス吉田明菜選手の銀メダル獲得は大きな喜びを届けてくれました。さらに、野球WBCでのドジャース山本由伸投手は素晴らしいピッチングを県民に見せてくれて、皆が大興奮しました。岡山県出身者のこうした活躍にどれだけ勇気づけられ、これからのエネルギーになっっているのか計り知れません。岡山県出身者の活躍は県民の誇りとなりました。心から感謝申し上げます。

冬のスポーツの祭典が終わると、東情勢が厳しくなり、県内の企業活動にも次第に影響がはじめています。そして、物価高騰等で生活が苦しくなっています。そうしたなか、2月定例県議会にて県当局の経済対策を盛り込んだ令和7年度補正予算案と令和



参加式まき豆節

8年度予算案を可決しました。そして新年度が始まりました。5月の臨時県議会にて、私太田正孝は第77代岡山県議会議長になりました。

このような大役をいただきましたのも、この31年間、私を政治家として育てて下さいました地域の皆様、行政の皆様、報道関係の皆様のおかげであります。心から感謝を申し上げます。

県議会議長になり、想いを申し上げます。県議会議員として、円滑な県議会運営に努めることは勿論のことですが、初心を忘れずに、県民の生活を第一に考えて何事にも取り組みます。県民の皆様に分かりやすい情報発信を行ってまいります。希望を持つことが出来る県政を創って行きます。これまでと変わらぬご指導ご鞭撻を賜ります様に何卒よろしくお願ひ申し上げます。

岡山県議会議長 太田正孝

「デフレからの脱却」に挑戦し

続けて、日本経済の流れがやっと変わり始めた。やっとインフレ基調になって来た。このデフレからの脱却に挑戦しているなか、世界中でグローバル化が進んでいる。その結果、日本で起きていることは何か?この紙面では、この点を踏まえながら、今、岡山県政が取り組んでいることを報告する。

日本全体で起きている動きとして、

- インバウンド4千万人時代の到来
- 工場の海外進出・現地生産化(国内工場の海外への移転)

また、私たちの暮らしの中でも起きていることがある。インターネットがなくてはならないものになった。インターネットに接続すれば、世界中のニュースをリアルタイムで日本でも視聴可能な時代となった。ニュースだけでなく、スポーツもコンサート等も一流のものを簡単に観ることが出来るようになった。その延長の中で、世界の人気スポーツ(サッカー、バスケットボール等)が身近なものになり、野球以外のスポーツにつ



グローバル化の潮流を取り込め

いても「日本でのプロ化」が始まった。岡山県内においてもプロスポーツの試合観戦が日常の生活の中で普通になりつつある。

こうした流れは、ITの進化(リアルタイムな情報伝達)やLCCの広がり(安価で移動可能)などにより、さらに加速するであろう。この動きを岡山県政に取り込んでも政治の役割である。岡山県はその取組を幾つかしている。

一つ目が、空の玄関である岡山桃太郎空港を活用しての地域経済の活性化への取組。



岡山桃太郎空港滑走路

平成3年に開港した岡山空港ではインバウンドへの対応として台湾便の就航に漕ぎ着けた。その結果、空港利用者が大幅に増えた。2025年岡山県内の外国人延べ宿泊者数(速報値)は67万6730人であった。

この好機を活かそうということ、現在、空港機能の拡張に向けての検討が始まった。具体的には、「老朽化への対応としての耐震化」や「国際線の増便」、「飲食やお土産コーナーの充実」等について調査研究が進められている。現在の事業費見込み額は280億320億円となっている。こうした取り組みについては広島空港や高松空

港が先行しており、他空港との差別化も大きな課題である。知事は新規空港の開拓にも力を入れている。3月下旬にはベトナムを訪問した。さらに、タイも候補に挙げている。これらの空路を含めて、岡山県としての新たな空路開拓をするべきである。多くの都市と岡山が結ばれることで、岡山の発展に繋がることを期待する。

二つ目が、水島工業地帯において、GXに取り組み、世界の中で先進的な工業地帯に転換する取組。

2025年3月下旬にJFEスチール、三菱ガス化学、三菱ケミカルの三社は水島コンビナートにおいて、製鉄プロセスから発生する副生ガスを用いてメタノールを製造し、メタノールからプラスチック原料となるプロピレンを製造する実証実験に関する覚書を締結している。

この件に関するJFEスチールの取り組みは、次の通りである。

- ◇当面のCO2排出削減目標年次…2030年。
- ◇方法
 - 高効率・大型電気炉、低炭素直接還元鉄、CCUS(CO2の回収・貯留、有効活用)など、複線的に技術開発に取り組み、早期実装化をする。
 - カーボンリサイクル高炉の中規模実証炉および燃料ガス系統へ導入し燃料として脱炭素化に活用する。

◇その他
水素利活用について、ENEOSと水素利活用に関する共同検討を実施する。

他の二社の取り組みについて。三菱ガスは長年培ってきた自社触媒を基にしたメタノール製造技術により、CO2・廃プラスチック・バイオマスなどをメタノールに転換して化学品や燃料用途として資源循環を構築する取り組みに着手している。また、三菱ケミカルは2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの達成を目指し、サーキュラーエコノミー実現に向けての取り組みを行っている。こうした取り組み等については、大企業にとっても大きな負担を強いられることになる。それを乗り越えてもらおうと、国が様々な仕組みを作り、支援している。その動きは他にもある。大阪ソーダの水島工場での新しい取り組みが昨年10月に政府の「排出削減が困難な産業におけるエネルギー・製造プロセス転換支援事業【事業II(化学・紙パルプ・セメント等)】」に採択された。それはエピックロルヒドリン製造工程において化石由来からバイオ由来に転換する事業である。投資規模は30億1300万円。政府支援の上限金額は9億7000万円、稼働開始時期は2027年度上期、温室効果ガス排出量削減効果を約78000tCO2e(2035年度)と見込んでいる。

一方で、世界情勢等から、事業縮小の動きも出てきている。水島コンビナートの三菱ケミカルと旭化成の共同運営するエチレン製造設備を2030年に大阪の三井化学のエチレン製造設備にまどめるとの方針が出された。そして、この度の中東情勢の悪化で、原料となる原油由来のナフサが調達難となるとの見込から、水島のエチレン製造設備は減産に踏み切る。こうした不安もある。

重厚長大産業の拠点である水島コンビナートが大転換期を迎えている今、こうした取り組みが十分な成果を収めるためには、港湾施設や道路などのインフラ整備も乏しいこと、国の仕組み等を活用して地元自治体の後押しは必要である。この事業を是非とも成功させることが岡山県にとってとても大切である。県議会からもっともっと応援して行くことを約束する。

三つ目が、JFE晴れの国スタジアムの千席増席の取組。

グローバルスポーツのサッカーの人気は岡山においても高まっている。J1に昇格したファジアーノ岡山の試合は毎試合満員とのこと、新サッカースタジアムを求める署名が岡山県当局と岡山県議会のどちらにも提出された。このことを受けて、県当局は令和7年度補正予算のなかで2億5千万円を予算化して、JFE晴れの国スタジアムの芝生席に千席の観客席を増設することとした。完成時期は2027年2月を見込んでいる。さらに、新スタジアムの可否を含めて検討する協議体の初顔合わせが3月24日に行われた。結論を出す時期は決まらされていないが、これから

1,000席増席されるJFE晴れの国スタジアム



新スタジアムの議論が加速するものと期待したい。そして、ファジアーノ岡山にはJ1で常に上位に入るチームに成長してほしいと願う。

他にも、グローバル人材の育成に向けて、学生の留学への関心・意欲を喚起するとともに、留学にチャレンジする学生を支援する取組等を実施している。

先般インドネシアを訪問したが、公共交通インフラ投資と外国企業の誘致に熱心に取り組んでいた。また、DX化も日本以上に速いスピードで取り入れられている様子にも感じた。現在の中東情勢についてはとても気に掛るものの、これからはグローバルゼーションの流れは広がり続けるものと考えられる。その中で、国として進めたい部分と都市としてどう進めるのかという点について考えを整理しておくべきではないだろうか。世界という視点からも岡山県の発展を考え、岡山県のアップデートを図って行きます。



国の責任ある積極財政に転換を県政に取り込め!!

この四半世紀の岡山県政で逃げて通れなかったのが行財政改革であった。そのため投資が出来なかった。こうした状況を受けて、現在、知事は20年〜30年先に後悔をしない県政運営をするとしていた。その矢先、2022年度の県民所得（最新データ）が44位との発表があった。ショッキングなニュースとなった。この件を二月定例県議会のなかで多くの議員が取り上げた。その議論で見えてきたことを報告する。

現在の岡山県当局の取組は、「EVシフト」や「航空機産業の育成」、「カーボンニュートラルポート」等。これらの取り組みだけでなく、企業誘致にもっと積極的にするように知事に求める意見が多くの議員から出された。しかし、知事は市町村に産業団地造成を任せるという方針は変えなかった。また、物流団地も作らないとしていて、この分野は民間企業の独自努力に任せる格好になっている。

なぜ企業誘致が大切なのか。他県の法人税収入のデータがある。2023年度の法人税課税額（国の統計）を見ると、
1位 東京都8兆2870億円
（全体の48.14%）
2位 大阪府1兆6360億円
3位 愛知県の1兆6290億円

それでは岡山県はどうか。岡山県は1150億円（全体の0.67%）となっている。税収の多い都府県では教育や医療、福祉などの分野で厚い政策を打つことが出来る。横道にそれるが、全国の合計特殊出生率について。ほぼ全ての道府県で悪化するなか、東京都においてこの数字が改善していたのである。ここで岡山県の出生に関するデータを示すと、出生数は1万926人（2024年速報値）で前年比649人減少。13年連続で過去最少を更新。合計特殊出生率は2024年1.27。前年（1.32）から0.05ポイント低下、2年連続の過去最低となった。

水島港湾 脱炭素化推進課計画

国の脱炭素計画を受けて、「水島港湾脱炭素化推進課計画」が作成されている。そして目標が定められている。2013年度の温室効果ガス排出量約2955万tに対して、2027年度の目標値は2658万t（297万t削減、約▲10%）、2030年度の目標値は1794万t（1161万t、▲39.2%）、2050年度はゼロである。この高い目標値をどうやって実現をするのかという点が気に掛る。

過去の報道を調べると、昨年4月に水島コンビナートに立地するJFEスチールの計画が公表されていた。高炉3基のうち「第二高炉」1基を、政府の「排出削減が困難な産業におけるエネルギー・製造プロセス転換事業」の補助金1045億円（上限）を活用してCO₂ 260万tを削減するとしている。（投資額は3294億円、生産能力は200万t、生産開始時期は2028年度を予定）

それから水島コンビナートのエチレン工場の件について。この工場は大阪に集約されることから2030年度を目処に操業停止となる。現在の生産能力は49.6万t。1.5~1.89t-CO₂ /t-エチレンであるから、77.4~88.0万tのCO₂がおおよそ2031年度から排出されないことになる。

こうして各工場の数字を並べてみて、2030年度までの目標値達成に、他にももっとやらなければならないということである。

こうした問題意識を持っていたなか、2月23日の岡山県議会土木委員会で、「水島港湾脱炭素化推進課計画」が議題になった。提出資料に最新データが掲載されていなかったのが、どれくらいの数値になっているかを訊ねた。そこから、県当局がこの計画を推進するに当り、どのくらい関与しているのかという視点で、議論を深化させていった。しかし、土木部以外の部署にもまたがるということで、県の取組を十分確認するまでは出来なかった。今後もこの議論を深めていきます。



水島コンビナートで火災訓練

若者や女性の

流出対策

岡山県から若者や女性が流出している。「転出超過」とは転出者が転入者を上回ることであり、日本政策投資銀行岡山事務所調べでは20〜24歳の女性の割合は、2010年の0・86%から2024年の2・91%に悪化している。

これまでのやり方では、これからも続くとの予測は容易に立つ。私は前回の県議会選挙においても「昭和のやり方」から「令和のやり方」に変えようと呼びかけた。この昭和のやり方とは、高市首相が当選議員にギフト券3万円分を配った件のようなものである。この件で説明を求められた高市首相は結婚祝いに包むような程度のもので昭和のオヤジのような振る舞いをしてしまったと釈明された。昭和のやり方全てを否定している訳ではないが、若者女性にとって昭和のやり方で腑に落ちない所が多く出てきている訳である。そうしたことは変えていくべきである。それに気づいて早くから変えることに取り組んでいるのが都会である。



富山県消防学校

四季防災館視察

10月30日

防災管内に能登半島地震等を体験できる起震装置が設置されている。東日本大震災を体験させて頂いたが、手すりを持つことでやっと立ち続けることが出来た。みなさん、万が一に備えておきましょう。



貝殻山クリーン作戦参加

(主催：岡山県産産資源循環協会) 11月11日

自動車やタイヤ、家電品など様々なものが捨ててあった。皆で地域の環境を守りましょう。



緒方洪庵・木下利玄

作文コンクール表彰式

12月7日

足守地区の児童生徒たちが地元の人達に感謝を込めて書いた作文が表彰された。彼ら彼女らのこれからの成長が楽しみである。



路面標示修繕箇所を

点検しました 12月18日



「令和8年度岡山県一般会計予算」の中に「路面標示修繕3か年緊急対策」として予算5億円が付けられた。これは県議会でも再々に横断歩道や道路のライン等の道路標示が消えかけている箇所が多くて危ないとの指摘を受けてのものである。この対策で行われることは、視認性が低下した横断歩道等の道路標示及び周辺の区画線の集中的な修繕(道路標示及び区画線の修繕対象量の拡充)である。交通安全に関してもっと注力して行きます。皆様も交通安全へのご協力をお願い致します。(写真は昨年師走に改善されたもの)

東平野町内会行事に参加

(足守川河川敷広場) 1月8日



地域の力で足守川河川敷に広場が造られた。その広場で子どもたちがのびのびと遊ぶ姿を見ることが出来た。幸せな一時を送ることが出来た。

石井スポーツ少年団の餅つきに参加

1月18日



子どもたちと一緒に搗き立ての餅を食べた。子どもたちと一緒に食べるお餅は格別だった。

吉備スマートインターチェンジ 24時間化・大型車対応開通式

2月1日



国道180号 総社・宮バイパス(宮山崎〜今岡)並びに吉備SASスマートIC 24時間化・大型車対応開通式が開催された。これで24時間利用と大型車の通行が出来るようになった。地権者の皆様や工事にご協力くださった地元の皆様、そして、国道事務所、岡山市をはじめとする関係の皆様から感謝を申し上げます。

最上稲荷節分豆まき式

2月3日



一年の無病息災や幸福を願う参拜者が約3万人集まり、豆まき式が行われました。

岡山工業高校卒業式出席

3月1日



卒業式に臨んだ卒業生は三百十人皆が凛々しい顔をしていた。この三年間でたくましく強く成長したことを感じた。18年間育てて来られた家族の方も沢山出席されていて、本当に喜んでおられた。さて、この高校の卒業生たちの進路はどうなるだろうかと思いつながら、配布資料に目を通した。県外への就職を選択する人も多い。百七名である。一方、県内就職者は九十六名である。卒業生が自分で決めた道である。皆、それぞれの道を究めてほしい。そのため、

校長先生の式辞にあった「挨拶の大切さの話」を常に頭の片隅に置いておいてほしい。きつと周りから信頼され、愛される人になれると信じます。卒業生の皆さんの前途を心から祝福します。

県政報告会(庭瀬の信城寺)

3月1日



演題を「時代を先読みして、ピンチをチャンスに」にして、県政報告をさせていただいた。

点字ブロックの日

制定16周年記念イベント (岡山駅) 3月15日



3月18日の点字ブロックの日を前に表町や岡山駅等で行われた。点字ブロックは岡山が発祥の地。今、点字ブロックを見て、この点字ブロックの上に自転車を駐輪したり、何か物を置いていたりする光景等はなくなりつつある。多くの方々に理解をされるようになり、うれしい限りである。そして、現在では、日本全国は勿論のこと、世界中に広がっている。「点字ブロックの普及」と「点字ブロックに物を置かないで」との啓発活動」等により、こうした世界情勢だからこそ、尚一層「他人への優しさと思いやり」の心「が世界中に広がればと願います。





旭川流域小倉地区

3月16日

小倉地区は大きな水害に遭ったことがあり、岡山県当局により順次、河道拡幅工事や護岸工事を行われ

ている。その現場を訪ねると、地域の方から、「あともう少しになった。よろしく頼む」との声を聞いた。土地の提供を下さった地域の方々をはじめ、県当局や工事関係者等の方々には大変にお世話になっている。着手から20年以上が経ったが、本当にあともう少しである。そして、その工事の目途が付きつつあり、岡山市当局が小倉橋（全長172.4m、小倉一草生）架け替え工事を始めている。現在、現場には大型重機が入り、上部工が吊り上げられている。着々と工事が進んでいることを確認した。本年8月下旬に工事を終えたと聞く。しばらくの間は住民の皆様、通行の皆様にはご迷惑をお掛け致します。何卒ご理解の程宜しくお願い致します。



吉備高原のびのび小学校

卒業式に出席

3月21日

この度の卒業生は5名と6名である。卒業式に出席させて頂いて

最後まで涙が止まらなかった。全ての卒業生の子どもたちから感謝の言葉と進学先も頑張るとの言葉があった。また、保護者等からは学校への感謝の言葉が続いた。どの言葉からも、子どもたちと保護者たちにとって言葉に出来ないほどの辛い時間が長くあったことを知る。卒業生の門出を祝福するとともに、進学先でもっとも成長をしてほしいと願う。



中之島クロス

(NakanoshimaCross) 3月26日



ここは大阪府や21の民間企業で設立した未来医療推進機構が運営している。ベンチャー企業のサポートや起業家精神育成についての仕組みづくりに注力されている。この機構のビジョンは「世界をリードする再生医療の拠点とする」「リハート（iPS細胞の心筋シート）の再生医療技術から産業化を目指す」「世界中の患者さんの命を救い、健康に貢献していく」等。ターゲット



トは海外も見据える。2026年度当初予算には、再生医療の産業化に関連した事業費として約1億3630万円が付けられている。今回、お話を伺って、これから再生医療技術の社会実装の実現が近づいていることを感じた。

和歌山県消防学校を視察

3月27日



平成29年に竣工している。高層訓練棟や水難救助訓練施設、移動式消防訓練施設、放水訓練場、屋内訓練場、教育管理棟、宿泊棟、車庫棟、ヘリポート等が整備されている。そのなかで、特徴的なものは自然災害対応訓練施設である。南海トラフ大地震や台風などの大規模災害に対応する訓練をするためである。この訓練場の中央に大小の岩石や土砂を使用して様々な自然災害現場を再現できるような施設を設置している。（左記写真参照）そこで被災者を救助する訓練が行われる。今、こうした実践的な訓練を行っている消防学校が増えてきている。岡山県の消防学校の充実に更に力を入れて行く。

県道箕島高松線で

四車線供用開始

3月28日



3月27日から下庄跨線橋の拡幅工事が竣工した県道箕島高松線で四車線供用が始まった（岡山市北区大内田一倉敷市下庄）。

筆者もこの四車線供用となった箇所に行ってみた。いつもの土曜日よりも交通量が多いように感じた。そして、勾配が有る道路なので、エンジン音も大きく聞こえた。これはエンジンをよく回すようになった為なのか、それとも交通量が増えた為なのかよく分からないが、広くなっただからといって、アクセルを踏み込み過ぎるのは控えていただきたい。必ず安全運転でお願致します。



岡山県道61号妹尾御津線

(幸川市場) 4月2日



県道61号線と住宅地との接続について、住民の声が届いていない部分があった。住民からその点についての要望事項を工事した備前県民局工務課に伝えた。フォローして行きます。

第35回足守洪庵さくらまつり

(近水園) 4月2日



前日は激しい雨であったが、当日は素晴らしい天気となり、大勢の来場者であった。

吟風閣から近水園の桜を見ながらのお茶はとても贅沢な気持ちになることが出来た。もてなして下さったのは大安寺中等教育学校の生徒たちでした。このこともとてもうれしいことでした。



吉備高原希望中学校の

入学式に出席

4月5日



新入生は5名、吉備高原のびのび小学校には転入1名があった。在校生から新入生が入ってくるのを楽しみにしていたとの歓迎の言葉があった。この言葉を聞いて、とても心が温まりました。充実した学校生活を送られることをお祈り致します。



編集後記

岡山大学名誉教授森熊男氏の「温故知新」『論語』の教え」という講演を聞いた。講演は論語が十巻・二十篇・総字数13500字（異なり字数1570字）から構成されているという話から始まった。大学の講義を受けているようであったが、莊子の「渾沌寓言」に移ると、氏の声のトーンが上がった。この物語は「南と北に儼と忽の二人の神と、その両者の間に渾沌という神がいて、ある時、南北の儼と忽がその間に住んでいる渾沌の地で会った」というところから

ら始まるのだが、先生から聞くと、とても面白い。この世界に引き込まれて行った。最後、人が持っている7つの穴を持っていない渾沌は儼と忽から一日に一穴ずつ空けてもらうのだが、七日目に最後の一つを空けてもらうと、渾沌は亡くなってしまふ。この物語を話して終えられた氏は、この話を現代に置き換えると、どういことが当て嵌まるかと聴講していた皆に問うた。演題の温故知新はここに繋がるのである。皆様も考えてみてはどうでしょうか。（M・O）